＊＊

「海の生き物を守る会」メールマガジン　No. 68　　2010.11.1（月）

うみひるも

Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage：http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html

＊＊

「今月の海の生き物　アコヤガイ　*Pinctada fucata martensii*

真珠貝とも呼ばれ真珠を作る二枚貝の代表的な種。同じ属のクロチョウガイやシロチョウガイが熱帯の海の生き物であるのに対して、アコヤガイは暖温帯の種である。殻の内側にみごとな光沢の真珠層を作るため、日本発の真珠養殖に利用されてきた。外套膜の内側に人工の核を入れておくと、貝が傷を補修して真珠を作る。一方の殻が平たく、他方がやや膨らみを持つ。貝が分泌した青緑色の足糸で岩などに固着して生活する。雌雄異体だが、幼貝の時は両性を持っている。海水を濾過して、懸濁している植物プランクトンや有機物を食べる。水管は持たない。

（和歌山県白浜町にて　向井　宏撮影）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

目次　　「今月の海の生き物」　アコヤガイ

１．海の生き物とその生息環境に関するニュース

２．海の生き物を守る会の現在の活動と予定

３．海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

４．事務局便り

５．編集後記

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

1、海の生き物とその生息環境に関するニュース

【全国】

●多様性条約 COP10 が終了　「海洋保護区を10％へ」など目標

愛知県名古屋市で開かれていた生物多様性条約 CBD の第 10 回締約国会議は、10 月 30 日の午前 2 時ころ、ABS 名古屋議定書と新戦略計画（ポスト 2010 年目標）を採択してようやく終了した。マスメディアは ABS 議定書（遺伝子資源の配分）の問題ばかりを報道していたが、その他にも重要な目標設定が 20 点ほど行われた。その中で、2010 年目標として設定された海洋保護区を世界で面積比 10%にまで拡大するという目標を、再び 2020 年までには実行すると決めた（日本は現在 0.3%）。EU が 15～20%を主張し、中国は 6%を主張するという中で、達成できなかった 2010 年目標をふたたび 2020 年までに延長するという不十分な結果に終わった。

●環境省が海のレッドリスト作り　ようやく取り組む

絶滅が心配される動植物のリスト（レッドリスト）は、陸上の動植物を中心にこれまで環境省や地方自治体などで作られてきたが、海の生き物については、これまで水産庁の縄張りを犯さないように環境省では作られてこなかった。これは環境庁が作られるときに、水産庁とのあいだで縄張りの取り決めがあったと言われているためである。

しかし、国際的な生物多様性重視の時代になり、生物多様性条約 CBD の第 10 回締約国会議 COP10 が名古屋で開かれ、日本が議長国を勤めたこともあって、環境省ももうそれをやらないわけにはいかなくなった。COP10 の海に関する関連イベントで、環境省はようやく海の生き物についてのレッドリスト作りに取りかかることを宣言した。海の生き物については、レッドリストなどの基礎データが無いために、生物多様性保全のための対策も立てにくくなっており、それが海の生き物の絶滅を食い止められなかった原因の一つであると考えられている。ようやく海の生き物を保全する足がかりができることになった。環境省では、これから専門家による検討会を開いて数年掛けてレッドリストを作ることにしている。

●9 割が原子力大綱の見直しを

海に大量の温排水を垂れ流し、海の生態系を破壊する原子力発電について、内閣府の原子力委員会が行った現行の原子力政策大綱についての意見募集では、回答者の 9 割が原子力開発の推進を明記している現行の大綱を見直すように求めていることが明らかになった。民主党政権でも推進が加速されている原子力開発について、圧倒的な国民が不同意であることが分かった。政府は原子力政策を大幅に見直すべきだろう。

【北海道】

●霧多布港でラッコ目撃　「クーちゃん」か？

北海道浜中町の霧多布港に野生のラッコが姿を現し、町民の間では、昨年釧路港に長期間滞在していた「クーちゃん」が今年も来訪したのではないかと噂になっている。最近、北海道の東部太平洋岸ではしばしばラッコが目撃されるようになった。千島列島の個体群からやって来ているが、千島列島の個体群密度が上昇した結果であれば、そのうち北海道沿岸でも定住するかもしれない。問題は、沿岸の定置網など漁網による混獲だ。混獲による死亡が非常に少ない千島列島では生息できても、北海道沿岸では生きていけない可能性は高い。

【東北】

●工事進む大間原発　函館市民が差し止め訴訟

函館から 23km の津軽海峡を挟んだ青森県大間町に、電源開発(株)が建設を進める大間原子力発電所がある。4 年後の 2013 年 12 月にウランとプルトニウムの混合酸化物（MOX）燃料を装填し、試験運転を始める予定である。函館市民ら 170 人が原告となり、建設差し止めの訴訟が始まっているが、建設工事は原子炉の設置許可が出る前から着々と進められ、現在は 24%の進捗率だ。大間原発は MOX 燃料を全炉心で使う世界初の商業炉として計画されている。その安全性にはいまだに疑問符が付く。原発敷地のほぼ中央、炉心から 250m の地点に、建設反対を貫いた故熊谷あさ子さんの土地 1 ha がありログハウスが建っている。あさ子さんの長女で函館に住む小笠原厚子さんが地権者としてこの土地を売らずに守り抜いている。小笠原さんは「大間の海は魚が豊富で、空気も美味しい。その大間に、危険なものはいらない」と話している。今後ログハウスに移住し、反対を貫く予定だ。

【北陸】

●石川沿岸はまだ残暑　海水温　記録的な高さ

石川県七尾市の石崎漁港では、海水温が 10 月の観測史上最高温度の 23.0℃を記録した。石川県沿岸の 10 月平均水温も過去 3 年の平均より 1.6～1.9℃も高く、今夏の記録的な猛暑の影響がまだ残っていると見られる。例年ならシーズンの終わりを迎えるアオリイカやキス

が好調に釣れている一方、イイダコ釣りが不振にあえいでおり、異常気象が自然界の生き物の季節を変えつつある。台風の接近が少ないことも、水温がなかなか下がらない一因とも見られている。また、水温の高いことが海藻の生育の悪さに拍車を駆けて、磯焼けがさらに広がる怖れもある。

【近畿】

●田辺湾で相変わらずアマモの植え付け

和歌山県田辺湾で消失したアマモ場を復活させようと、地元の漁協や NPO、自治体などが「田辺湾におけるアマモ場造成事業ネットワーク」を作って、アマモの植え付けを行っていることは、これまでも何度か批判的に紹介してきた。今年も田辺市新庄町の内の浦でアマモの種付け作業が行われた。6 年前から行われているこの事業も、効果はほとんどない。田辺湾のアマモ場が消失した原因はいったい何だろうか。原因も調べずにアマモを植えてもアマモ場は復活しない。そのような事業に環境教育と称して小学生を動員するのは、大きな過ちである。

●中国で　イソギンチャクやサンゴの祖先の化石を発見

中国・陝西（せんせい）省にあるカンブリア紀初期（約５億４千万年前）の地層から、極く小さな化石が、イソギンチャクやサンゴの祖先の最古の化石であることが分かった。京都大学瀬戸臨海実験所の久保田信准教授や串本海中公園センター名誉館長の内田紘臣博士らが参加した日中米共同研究チームが見つけた。この化石は長さ 0.5mm という極小で、合計 8 個体が発見され、北京オリンピックが開催された年に発見されたことから、「エオリンピア」と名付けられた。六方珊瑚の仲間で、久保田准教授の話では「世界的な発見。刺胞動物の初期進化の証人となる非常に貴重な化石」とのこと。イソギンチャクなど骨や殻のない動物は化石になりにくく、この化石は非常に稀な例とのこと。外部形態から、有性生殖で柄のある個体が生まれ、その後、横分裂してクローンを作り、これを繰り返して増殖するという生活史も推定できた。

●巨大イセエビを捕獲

三重県南伊勢町田曽浦の海で、全長 70cm 重さ 2kg を超える巨大なイセエビが捕獲された。県の水産研究所によると過去の記録にない大きさという。普通に漁獲されているイセエビは大型でも 250g 程度なので、その 8 倍にもなる。捕獲されたのは資源保護のために禁漁区としている海域で、資源調査と保護資金を得るために行った刺し網漁で獲れた。地元の魚介類販売業者に引き取られた。

●英虞湾　水門開放で自然干潟の再生

干潟の自然再生と称した人工干潟の造成が各地で行われている中で、かつて干潟だった場所を再びもとの干潟に戻すという本当の意味の干潟再生が三重県英虞湾において実施されている。三重県水産研究所が科学技術振興機構の支援を得て、英虞湾の志摩市阿児町立神の石淵池で行っているもので、環境悪化が進む英虞湾に自然浄化機能を持った干潟を再生することによって赤潮などの現象を減らすことができないかという狙いを持っている。石淵池は、かつて干潟だった場所を水田の塩害防止のために堤防を作り海水の侵入を阻んで淡水池にしたもの。周囲の水田が無くなり、需要が無くなったためにそのまま放置されていた。この水門を再び開放して海水を入れ、もとの干潟に戻そうという試みがなされている。水門開放は今年 4 月に行われた。英虞湾でも環境悪化を食い止めるためと称して人工干潟の造成が行われている。しかし、人工干潟の造成には 1 ha あたり 1 億円くらいの費用がかかる。さらに人工干潟にはさまざまな問題があり、本来の自然再生事業とは言えない。今回の石淵池の干潟再生では、本来の意味の自然再生事業が初めて行われている。わずか 2 ha の小さな干潟であるが、高く評価したい。水門開放による干潟再生は、諫早湾の干潟再生にぜひとも活かしたい。

三重県水産研究所では、水門開放後の生物相の変化を調べると同時に、地元立神小学校の生徒に自然観察の指導も行いながら干潟再生を環境教育にも利用している。ただ、一点問題がある。子供たちの環境教育として、干潟にコアマモの移植・植え付けを行っていることである。コアマモの移植によるアマモ場の再生は、けっして良い環境教育とは言えない。自然の干潟が再生されれば、植えなくてもコアマモは生えてくるはずだ。その過程をしっかり観察させることこそ環境教育ではないだろうか。

【中四国】

●四万十川河口で砂洲が消失　防波堤建設が原因

高知県の四万十川の河口には砂洲が河口の半分近くまで張り出し、しかもそれが季節や降雨量によって消失出現を繰り返すきわめて動的な環境にある。そのために河口付近では昔からしばしば船が座礁する事故も多かった。そのために、河口の真ん中に導流堤を作り、航路を確保する工事をおこない、さらに 1980 年代から河口部左岸に長い防波堤を建設した。その結果、今度は砂洲が減少し始め、消失期が長期化していた。昨年からは一

年中砂洲が形成されなくなった。そのために、海水が常時流入するようになったため、河口内の塩分が上昇し、それがアオノリの養殖の不漁の原因として対策を求める声が挙がっている。高知県では、調査の結果、防波堤の整備が砂洲の復元力を弱めていると結論し、今後大量の土砂や石を投入して復元を促すことにした。（上図がかつての砂洲のある状態の写真。下図は今年の砂洲が無くなった河口）

けれども、防波堤の建設が原因と明らかになったにもかかわらず、防波堤の改良・改善もしくは撤去をやらずに、土砂の投入で砂洲の回復を行おうというのは明らかにおかしい対応である。それでは、砂洲を維持するために、永久に巨額のお金をつぎ込み続けなければならないことになる。対症療法ではなく、本質的な解決を目指して欲しい。

●上関　作業船が座礁で撤退　反対集会は 1000 人集まる　タイからも連帯のメッセージ

10 月 15 日から中国電力は上関原発予定地の田ノ浦の埋立工事をするために、3 隻の台船を田ノ浦に向かわせた。しかし、祝島の漁船がそのうちの 2 隻を取り囲み抗議したため、5 日間作業現場に到着できないままになった。19 日には、夜明け前に抗議船のいない間に現場に急行しようとした台船 1 隻が途中の浅瀬で座礁。自力で脱出したが、右舷に 2m 四方のへこみができ、さらに 10cm 程度の亀裂も見つかったため、修理に出発した港に引き返した。さらに台風の接近もあり、3 隻の台船が同時に田ノ浦に集合しなければ埋立作業に入れないこともあって、中国電力はいったんすべての台船を撤退させた。台船の修理が終わったら、あらためて埋立工事を実施する構えである。

一方、中国電力による工事強行に反対する集会が 24 日に上関公民館で行われ、祝島住民を始め全国から約 1000 人が集まって中国電力に抗議した。上関町での抗議集会に 1000 人もの人が集まったのは初めて。上関原発に反対する祝島の闘いがようやく全国的な共感を得始めていることを示している。

21 日から始まった生物多様性条約 COP10 の名古屋会場でも、集まった世界の人に向けて日本政府の原発推進政策が日本の海のホットスポットといわれている瀬戸内海で、多様性保全を軽視するような工事を行っていることを告発した。また、若者たちによる抗議のハンガーストライキや、COP10 会場を人間の環で取り囲む催しも行われた。タイの人々（タイ民衆ネットワーク）からは以下のような連帯の声明も発せられ、上関原発に反対の声は全国から国際的にも広がりつつある。

中国電力の山口県上関町原子力発電所建設と埋立てに反対する
祝島の人びとを応援する原子力開発監視タイ民衆ネットワークの声明

祝島は日本の内海に位置し、面積 7.67 平方キロ、周囲 12 キロほどの小さな島である。現在の島民人口は約 500 名で、自然に適った農業として、枇杷の栽培、枇杷茶の生産、米作りなどを行い、重要な水産業として、蛸壺を使った漁業、海草採り、海苔の生産などを行い、日本の島で見られる伝統的な暮らしを営んでいる。また、4 年ごとに開催され、1000 年以上も続く島の歴史を物語る「神舞（かんまい）」という祭りでは、対岸の国東半島から船で渡ってくるご神霊を迎えるために櫂伝馬船などを出し、祝いの舞いを舞うなど、古代の島民文化を今に至るまで伝えている。

祝島から約 3.5 キロ離れたところに位置する上関町田ノ浦では、中国電力が約 135 万 KW の原子力発電所の建設を計画している。29 年も前に、たった 3.5 キロの沖合での原発建設計画が明らかになった直後、祝島島民の大半は計画に反対を表明した。というのも、計画は島民の営む自然な農業や漁業に打撃を与え、とりわけ、「スナメリ」と呼ばれるクジラの一種やナメクジウオなどの海洋生物、希少種の鳥類、絶滅危惧種のハヤブサなど、海中にあるこれら生物の生息地に影響を及ぼすと考えたからである。祝島の周辺は豊かさをたたえ、生物多様性に富み、実際、日本政府も瀬戸内海国立公園の一部に指定してきたほどである。

祝島島民は 30 年近くも原発建設反対運動を続け、島の内外でさまざまな形態の活動を展開するために、原子力発電所に反対する祝島島民の会を結成した。とりわけ重要な活動として、毎週月曜日午後 6 時に島民たちが屋外に出て、島の港に集合し、「原発反対」と記した鉢巻を巻いて旗を掲げ、島内各所をデモ行進する街頭行動がある。約 30 年間にわたり、1 ヶ月に 4 度、これまでに 1,077 回を数えたデモ行進では、参加者のシュプレヒコールが島中に響きわたる。

きれいなふるさとを守ろう！
原発反対！エイエイオー！
きれいな海や山を守ろう！

祝島島民たちは、島の内外で原発建設計画反対の立場を表明する集会を開催し、中国電力が原発建設に向けた埋立てを実施するために海中にブイを設置しようとした際には、多数の船をくり出して現場をおさえ、ねばり強く埋立てや作業の中止を求めた。ところが、そのたびに住民リーダーたちは、暴力的な作業妨害や器物損壊、あるいは公務執行妨害といった名目で訴えられ、今日では多数の住民が裁判を抱えている。2008 年初頭、中国電力は原発建設のための埋立てを始める意図で、山口県に埋立て許可を申請し、県もこれを了承した。一方、祝島の島民たちは、島内および日本全国から約 85 万筆の埋立て反対署名を集めて提出した。2008 年 10 月に住民代表が始めた、中国電力の埋立て差止め請求訴訟も係争中である。

最新の動きとして、先週、祝島での原発をめぐる紛争を注視してきたタイ民衆ネットワークは、祝島島民たちから、中国電力が島民や全国の市民の声をまったく無視して、海に船を出し、原発建設のための埋立てに向けて囲いを作ろうとしているという知らせを受けた。現在、島民は海と自分たちの島を守るために船を出し、中国電力の行動に対して抗議し、海を台無しにする埋立てを止めるよう要求してい

る。しかし、中国電力と山口県は、原発建設のために埋立てを実施しようとしている。

タイ民衆ネットワークも、祝島島民と同様、現在、**タイ政府の原発建設推進政策に直面しており、祝島をめぐる問題の推移を島民に対する共感の目で見守る**とともに、**人権やコミュニティーの権利を侵害し、島民と全国の市民の声と要求を無視して原発建設を進めようとする中国電力と山口県の強硬な行為が引き起した事態と紛争に対して不安を感じ**ている。

タイ民衆ネットワークは、原発建設や埋立てが祝島島民を含む周辺の住民、とりわけ建設地と近郊に住む漁民に直接的な打撃を及ぼし、生計喪失に至る事態を案じている。漁民たちは豊かな環境自然資源を失い、また、埋立ては、瀬戸内海全体にも影響を及ぼすだろう。

現在、祝島の島民たちは非常に緊迫した状況に直面している。原子力開発監視タイ民衆ネットワークは、原発建設に反対する祝島の島民と日本の市民の闘いに連帯を表明し、励ましを送りたい。また、原発建設のために海、コミュニティー、自然資源を破壊することに反対し、中国電力と山口県に権利の侵害を止めるよう要請するとともに、今後とも状況を注視したいと思う。

連帯の気持ちをこめて　　仏歴 2553 年（西暦 2010 年）10 月 15 日

・原子力開発監視タイ民衆ネットワーク・生態文化研究グループ（Eco-Culture Study Group）・ウドンタニ県環境保全グループ（Udonthani Environment Conservation Group）・東北タイ人権情報センター（Northeast Human Rights Information Center）・コミュニティー資料センター（Community Resources Centre/CRC）・タイ鉱山被害住民ネットワーク・原子力ウォッチ（Nuclear Watch）・パランタイ（Palang Thai）・バイオタイ財団（BioThai Foundation）・生態系啓発推進計画（Project for Ecological Awareness Building/EAB）・タイ環境正義ワーキンググループ（Thai Working Group for Climate Justice）・スリン県持続可能エネルギーネットワーク・消費者財団（Foundation for Consumers）・持続可能・代替開発協会（Sustainable, Alternative Development Association/SADA）・チェンマイ県地球温暖化防止ネットワーク・生態系回復財団（Project for Ecological Recovery）・持続可能性のための代替エネルギー計画（Alternative Energy Project for Sustainability/AEPS）

本件に関する連絡先

持続可能性のための代替エネルギー計画（AEPS）
所在地：41/23 Soi Nuanjun 27, Klongkum, Bungkum, Bangkok 10230 Thailand
電話/ファクス：66(0)2-944-5188、66(0)89-664-3012（携帯）
電子メール：wunjunre[アットマーク]yahoo.com、aeps40[アットマーク]gmail.com

（日本語訳。この声明は、タイ語原文を正式な文書とする。）

●猛暑でウミガメの孵化率も急減

徳島県美波町日和佐の大浜海岸で産み落とされたアカウミガメの卵は、近くのうみがめ博物館の人工孵化場へ移植されているが、7 月上旬までは 70％前後の孵化率だったものが、8 月に入って急激に減少。8 月 11 日に孵化予定だった卵はわずか 1%以下の孵化率になった。原因は夏の記録的な猛暑が卵の生育に悪影響を与えたものと思われている。

●アワビの生育も落ち込む　猛暑が藻場の衰退を招く

徳島県でも有数のアワビの産地である牟岐町で､アワビの水揚げが昨年より 4 割も減った。過去最高だった 1994 年に比べると半分に減少した。落ち込みは過去 18 年間で最大幅となる。原因は高水温が続いたために磯焼けが起こり、またアイゴなどの南方系の草食魚類が多くなり、海藻を食べ尽くし、アワビの餌環境が悪化したことと思われる。牟岐町沿岸では 3-4 年前から藻場の衰退が目立ち始めた。これまで 1995 年に赤潮の影響で水揚げが 2 割程度落ち込んだのが最大で、これほどの落ち込みはなかったという。

●岡山でアッケシソウが“紅葉”みごろ

岡山県浅口市寄島町にある寄島干拓地では、環境省のレッドデータブックで絶滅危惧種に指定されているアッケシソウが“紅葉”し、観光客に楽しまれている。アッケシソウは北海道の塩性湿地に生える海浜植物で、秋には真っ赤に“紅葉”して美しい。瀬戸内海では入り浜式塩田が行われていた頃に北海道から移入されたものが細々と生き残っているとされている。寄島干拓地も昔は入り浜塩田があったところで、干拓後も一部がアッケシソウの自生地として知られ、地元では住民約 150 人が「アッケシソウを守る会」を作り、草刈や生態調査などの保護活動をしている。“紅葉”が見頃の 10 月末まで守る会と浅口市が「アッケシソウ祭り」を開催していた。

【九州】

●佐多岬のオニヒトデ　姿なし

2008 年に鹿児島県南大隅町の佐多岬周辺の海域で大発生したオニヒトデが、今年は 9 月～10 月におおすみ岬漁協の駆除作業にも姿を現さず、いまのところゼロ匹。昨年は同じ頃に 1000 匹を超えるオニヒトデが駆除された。今年オニヒトデが出現しなかった原因ははっきり分からない。サンゴは密度も高く生育しており、オニヒトデの被害もほとんど見られない。

●アナアオサが有明海干潟に大量発生

熊本市小島下町沖合の有明海干潟で、「アナアオサ」という海藻が大量に繁殖し、アサリやハマグリの資源に影響が心配されている｡アナアオサは沖合の 600m～1km の範囲に広がり、干潟一面緑色の海藻で覆われている。昨年も春に玉名市の干潟で大量に繁殖し、重機で回収したことがあった。アナアオサは成長が速く、干潟に溜まって分解するとヘドロのようになり、海底を無酸素状態にしてしまうことが知られている。東京湾や大阪湾など富栄養化の進んだ内湾部でしばしば大量発生している。

●諫早湾の養殖カキ8割死滅　猛暑の影響か

長崎県諫早湾の小長井漁協と瑞穂漁協では、養殖カキが大量に斃死していると発表した。両漁協によると、筏方式で養殖しているカキの 8 割程度が死んでいるという。これも今夏の猛暑が海水温を 30℃以上に押し上げ、9 月以降もなかなか水温が下がらなかったことが原因ではないかと考えている。諫早湾では 2007 年にも猛暑と大量斃死が起こっている。

●中津干潟がブルーグローブ賞を受賞

生物多様性条約の COP10 のサイドイベントとして、国際湿地ネットワーク（WWN）が国際湿地賞を決定、全世界から 15 ヶ所ほどの湿地が、保全の度合いに応じて色分けされた賞を受賞した。日本からは唯一、大分県中津市の中津干潟がブルーグローブ賞を受賞。ブルーグローブ賞は、湿地保全の優良事例で、もっとも優秀な干潟を意味する。中津干潟の保全に取り組んでいる NPO「水辺に遊ぶ会」の足利由紀子さんが賞状を受け取った。

2、海の生き物を守る会 現在の活動と予定

●11月11日　パタゴニアから助成

パタゴニア アウトレット江坂ストアにて、ボイス・ユア・チョイスというお客様の声を投票という形にして、地元の環境団体を一緒に応援していく環境キャンペーンを 10 月 28 日まで実施しました。その結果発表会＆交流会のご連絡です。今回の参加団体は、「気候ネットワーク」と「海の生き物を守る会」の 2 団体です。
結果発表会は、団体の方をはじめ地元の方々との 交流を目的としています。参加対象者は、一般のお客様、団体関係者、スタッフ家族友人、近隣ショップなどなど、投票していただいた方に限っておりません。この機会に、交流いただけたら幸いです。みなさまお誘いの上、ご参加ください。
【結果発表会＆交流会】
開催日時　：　11 月 11 日（木）　20：00～21：00
開催場所　：　パタゴニア アウトレット江坂ストア
ご予約先　：　06-6192-7881（パタゴニア アウトレット江坂ストア）
当日の大まかな内容
■ストア・マネージャーより挨拶（ＶＹＣの主 旨説明。約 5 分）
■結果発表と授与（約 5 分）
■団体の活動紹介の時間　（各団体約約 5 分ずつ）
■交流会（約 30 分。パタゴニア製品の抽選会も行ないます）
※ドリンク、スナックをご用意いたします。マイカップをご持参ください。
上記情報のお問い合わせ、参加ご予約先
パタゴニア アウトレット江坂ストア　Tel: 06-6192-7881

●11月２０日　日立環境財団NPO活動報告会

11 月 20 日（土）午後、東京の KDDI 会館で日立環境財団 NPO 活動報告会が開かれます。2008 年度に同財団から助成を受けた「海の生き物を守る会」でも、活動報告を展示で行います。なお、当日のプログラムは以下の通りです。

日時：2010 年 11 月 20 日（土）13:30～

会場：KDDI ホール（東京都千代田区大手町 1-8-1 KDDI 大手町ビル 2F）

13:00　　開会挨拶（日立環境財団事務局長）

13:05～13:20　環境問題最近の動向（生物多様性）
　　川村研治（地球環境パートナーシッププラザ）

13:20～14:20　受領団体活動発表

15:55～16:10　環境問題最近の動向（地球温暖化）
　　加藤三郎（NPO 法人環境文明２１）

16:10～17:10　受領団体活動発表

17:10～17:20　閉会挨拶

17:20～18:30　交流会

展示は、ロビーおよび会場後方にて12:15～18:30です。ぜひ「海の生き物を守る会」の展示をご覧下さい。

3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

【東北】

●映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会

岩手　フォーラム盛岡

11 月 6 日(土)～11 月 19 日(金)　時間調整中

岩手県盛岡市大通 2-8-14　MOSS ビル 5F

019-622-4703　http://forum-movie.net/morioka/

【関東】

●OWS ネイチャースクール（保護者参加）～三浦半島日帰りバスツアー～

　このプログラムは、三浦半島の海岸を活用して実施する１日のコースで、海辺の自然観察と生きものしらべ、クラフト教室を組み合わせたＯＷＳオリジナルのネイチャースクールです。今回のネイチャースクールでは、小学生から高校生までの子供、そしてその保護者もいっしょに参加いただけます。新宿駅西口から大型バスで出発します。ご家族やお友達を誘って、この機会に海辺に出かけましょう！

開催日　　2010年11月28日（日）日帰り

募集人数　30名

参加費　　2,000円／１名（クラフト材料・教材・保険代）
集合場所　新宿駅西口　7：30　（三崎口駅集合も可。ただし料金は同額です）
詳しくは、ホームページをご覧ください。
⇒ http://www.ows-npo.org/activity/uminoko/index.html#NS1128
チラシ（PDF）　⇒ http://www.ows-npo.org/activity/uminoko/NatureScool2.pdf

●コカ・コーラ教育・環境財団　第3回公開講座
「鯨と捕鯨の過去、現在、未来－どうする日本の捕鯨と食文化－」

日時：11月11日（木曜日）18:00～20:30
会場：東京学芸大学 C 講義棟　C201教室
参加費：無料
参加申込：不要（当日、会場へお越しください）

講師は、政策研究大学院大学教授、元・国際捕鯨委員会(IWC)日本代表代理の小松正之氏です。小松氏はこれまで、商業捕鯨再開を目指す日本の交渉役として IWC など国際会議の場で活躍してこられました。『クジラと日本人―食べてこそ　共存できる人間と海の関係』『クジラその歴史と文化』など、捕鯨についての著書も多く出版しておられます。

●OWS 海のトークセッション　「カイメンの多様な世界」

ゲストスピーカー：伊勢　優史（東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所・特任助教）

皆さんは、「カイメン」と聞いて何を想像しますか？女性なら身体を洗ったり化粧に使う海綿を思い出す方もいるかもしれません。カイメン（海綿動物）は、最も祖先的な多細胞動物と言われており、我々動物の進化を考える上で極めて重要な生き物です。また、抗ガン剤等に利用できる有用天然化合物を生み出す生物資源としても注目を集めています。しかしながら、生物学の教科書ですら、ごくわずかな紹介しかなされておらず誤解されることの多い生き物とも言えます。カイメンを追いかけて潜った各地の海や深海調査の風景をまじえつつ、この謎多き動物の多様な世界を紹介します。

伊勢　優史　（いせ　ゆうじ）　**プロフィール**

スペイン領グラン・カナリア島ラス・パルマス市生まれ。幼少時は昆虫少年だったが、９歳の夏に素潜りで見た海の世界に惹き込まれる。無脊椎動物全般に興味があり、特に海綿動物を専門としている。現在は、インド・西太平洋区サンゴ礁域と深海性のカイメンを中心に研究を進めている。京都大学農学部卒業。東京大学大学院理学系研究科博士課程修了（理学博士）。現在、東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所・特任助教。

開催日時：**12 月 3 日（金）19：00～20：30**　（18：30 受付開始）
開催場所：**モンベルクラブ渋谷店　5F サロン**
渋谷区宇田川町 11 番 5 号　モンベル渋谷ビル　TEL 03-5784-4005　>>地図

参加費：**800** 円
定員：40 名程度(最少催行 10 名)
お申し込み方法：お電話(OWS 事務局 03-5960-3545)

またはこちらのフォームよりお申し込み下さい。 お申込み

※キャンセルされる方は必ずご連絡ください。 >> キャンセルフォーム

●シンポジウム「環太平洋の海洋問題」

◎日　時：11月29日(月)（13:30～17:30。終了後、懇親会）
◎場　所：横浜市開港記念会館
◎参加費：無料（ただし、交流・懇親会は会費制。学生は無料）
◎プログラム：以下のとおり。
開会挨拶・・・・横浜国立大学学長　鈴木邦雄
来賓挨拶・・・・(独)海洋研究開発機構／(独)水産総合研究センター
講演１：「スパコン地球シミュレータで紐解く地球環境の変化と変動」
・・・高橋桂子　海洋研究開発機構地球シミュレータセンター・プログラムディレクター
講演２：「地球温暖化は海洋生態系にどのような影響を与えるか？」
・・・・・・・中田　薫　水産総合研究センター中央水産研究所・海洋生産部長
講演３：「船舶のバラスト水管理問題に対する新しい解決法の提案」
・・・・・・・　荒井　誠　横浜国立大学工学研院教授
パネルディスカッション：「地域から海洋環境問題を考える」
――地域レベルに視点を移し、海洋の環境保全、生物多様性維持、沿岸域管理等について討議――
コンビーナ　中原裕幸　横浜国立大学統合的海洋教育・研究センター特任教員（教授）
パネリスト　来生　新　放送大学教授、横浜国立大学元副学長・同客員教授
〃　古川恵太　国土交通省国土技術政策総合研究所沿岸海洋研究部海洋環境研究室長
〃　（講師3人）
◎交流・懇親会（17:45～19:30）会場は当日ご案内。〔参加費：3,000円。学生無料〕
◎参加申込：下記の website を通じてお申し込みください。
http://www.cosie.ynu.ac.jp/sympo20101129.html
【併催行事】「大学生・大学院生シーカヤック体験授業2010　映像・パネル展示」
（於：同会館１号室、12:30～）（主催：横浜水辺のまちづくり協議会）

横浜国立大学統合的海洋教育・研究センター（横浜国大海センター）
〒240-8501　横浜市保土ヶ谷区常盤台７９－５　URL：http://www.cosie.ynu.ac.jp/

●三番瀬（船橋）自然観察会（11 月）

～たくさんの水鳥がやってきた～～

日　時　　2010 年 11 月 7 日（第 1 日曜日）

集　合　　ふなばし三番瀬海浜公園バス停　　午前 10 時

交　通　　京成船橋駅南口で船橋海浜公園行きのバスに乗車し、終点で下車。（9 : 20 発、9 : 40 発があります）また、ＪＲ京葉線二俣新町駅からは約 2.5km。駅から約 300ｍのバス停「二俣新道」から上記バスが利用できます（9:33、9:53 発）。

案　内　　数万羽のスズガモ、数千羽のハマシギ、数百羽のセグロカモメ、200 羽ものミヤコドリ、など冬鳥が（種類・個体数）たくさん観察されます。（日本有数の水鳥の渡来地が三番瀬です。）魚食性のホオジロガモやウミアイサ、カンムリカイツブリなども観察できます。

持ち物　　観察用具、弁当、水筒、長靴、防寒具。参加費 200 円。

担　当　　杉本（047‐477‐4551）、田中、田島。

主　催　　千葉県野鳥の会　　共　催　　日本野鳥の会東京支部

●夜の三番瀬探検隊

～夜の干潟の生き物や鳥たちは～

日　時　　2010 年 11 月 21 日(日)

場　所　　ふなばし三番瀬海浜公園

集　合　　ふなばし三番瀬海浜公園　アカエイ看板前 20 時 20 分

解　散　　23 時（午後 11 時）ころに現地。車でない方は西船橋まで送ります。

交　通　　バスは京成船橋駅前発 19:25 が最終、ＪＲ二俣新町駅から徒歩 30 分。

案　内　　夜、三番瀬の干潟の生き物はどうしているのでしょう？　ミヤコドリ、ハマシギ、セグロカモメ、スズガモなどは夜間にさかんに餌をとっています。カニや魚などの夜の活動も観察してみましょう。

持ち物　　防寒具、懐中電灯、長めの長靴。参加費無料。

注　意　　小、中学生は保護者同伴。車で参加される方はご連絡ください。夜の観察会のため、各自の責任においてご参加ください。

＊要予約　　申し込み：047-434-9824(田久保）

主　催　　千葉県野鳥の会

●谷津干潟自然観察会

期　日　　2010 年 11 月 21 日（第３日曜日）　雨天中止

集　合　　津田沼高校前バス停　　午前 10 時

交　通　　ＪＲ津田沼駅南口から新習志野駅行または幕張本郷行き京成バスで津田沼高校前下車。

案　内　　いよいよ冬鳥のシーズンです。ハマシギやダイゼンなど越冬するシギ・チドリ類、ユリカモメの群れ、カモ類など干潟にはたくさんの鳥たちがきています。近年、オオタカなどの猛禽類が頻繁に現れるようになりました。今年もズグロカモメは来てくれるでしょうか？北風が吹くと寒いので、防寒はしっかりと！

持ち物　　観察用具、昼食、参加費 200 円。

担　当　　飯島、斉藤（047-432-9416）

主　催　　千葉県野鳥の会

●行徳（新浜）自然観察会　～秋の野草と冬鳥～

期　日　　2010 年 11 月 14 日（第２日曜日）

集　合　　東京メトロ東西線行徳駅北口広場　午前 10 時。（快速は停車しません！）

案　内　　２コースに分かれます。

(1)「行徳保護区コース」は、保護区の中をゆっくり回り、
午後 1 時 30 分ごろ解散。

(2)「放水路経由コース」は、バス（大人 380 円）を使って、
江戸川放水路と保護区を巡り、午後 3 時 30 分ごろ解散。

秋が深まり、冬鳥のカモやカイツブリ類、ユリカモメ、ハマシギ、モズやウグイスなどの小鳥類、留鳥のセイタカシギや旅鳥のアオアシシギなどに会えるでしょう。保護区では、秋の草木の紅葉やチュウヒ、ノスリ、オオタカなどのワシタカ類に会えるでしょう。

持ち物　　観察用具、弁当、水筒、防寒具、雨具。参加費 200 円。他にバス代 380 円。

担　当　　田久保　TEL 047－434－9824

主　催　　千葉県野鳥の会

●みんなの力で守ろう三番瀬！
～2012 年締約国会議でのラムサール条約登録をめざして～

日　時　　2010 年 11 月 30 日(火)　18:00～

会　場　　船橋市民文化ホール

内　容　　第１部　イベント
第２部　シンポジウム

主　催　　みんなの力で守ろう三番瀬！実行委員会

問い合わせ　岸本紘男（TEL　047-318-4807）

●第９回 茅ヶ崎なぎさシンポジウム ～茅ヶ崎海岸の砂浜と環境～

日時：平成２２年１１月７日（日）午後２時～５時（予定）

場所：茅ヶ崎市 柳島記念館 大会議室（茅ヶ崎市柳島1900）現地へは、公共機関をご利用

ください。
茅ヶ崎駅北口　３番のりば【茅３５系統】　浜見平団地行き【茅３１系統】　松尾循環　茅ヶ崎駅行き
茅ヶ崎駅南口　１番のりば【茅３３系統】　中海岸経由　浜見平団地・松尾行き【茅３７系統】　西浜経由　　浜見平団地行き
いずれも、浜見平団地バス停　下車　徒歩１０分
主催：ほのぼのビーチ茅ヶ崎　後援：神奈川県　茅ヶ崎市　（財）かながわ海岸美化財団他　協力：神奈川自然保護協会
参加：参加費無料、定員100名
お申込み：メール→アドレスは こちら 、または fax0467-58-2655まで
　　お名前と参加人数をお知らせ下さい。
お問い合わせ：090-3218-4658
内容（予定）：
茅ヶ崎海岸侵食対策の効果と現状
・神奈川県藤沢土木事務所 なぎさ港湾課 砂防班（財）なぎさ土木研究センター
海岸美化の観点から茅ヶ崎海岸の利用状況
・（財）かながわ海岸美化財団
海岸環境問題全般で話題提供
・サーフライダー・ファウンデーション・ジャパン（ＳＦＪ）
豊かな砂浜はもどりつつ有るか・茅ヶ崎海岸とウミガメの産卵
・田中雄二（NPO 法人 表浜ネットワーク代表）
水資源有効活用・環境負荷低減の観点から
・葉山町の下水処理方法　守屋大光（元葉山町町長）・除草剤不使用での米作りに挑戦　ほのぼのビーチ茅ヶ崎
総括及び海岸の水環境について
・神奈川自然保護協会　廣崎芳次
演芸：浜辺の歌　その他
交流会：シンポジウム終了後、会場にて開催（有料、希望者のみ）

●みんなの力で守ろう三番瀬！の集い

2010 年 11 月 30 日(火)
◆第 1 部 18:00〜19:30
三番瀬コンサート ~ 里山から里海まで ~
特別出演：山本リンダ／邦楽演奏／よさこい明日風／船橋手拍子音頭／東葛合唱団(関さんの森ミュージカル)／千葉合唱団(三番瀬の歌)
◆第 2 部 19:30〜21:00

三番瀬シンポジウム~ どうして今三番瀬をラムサール条約湿地に登録するのか？~
基調講演：倉板秀史／コーディネーター：佐野郷美(市川緑の市民フォーラム)／
パネラー：大野一敏(船橋漁協組合長)他

●映画『祝の島』上映会
日時：11月6日（土）13:00～
会場：武蔵大学8号館8504教室　（東京都練馬区）
問い合わせ先：永田浩三（武蔵大学社会学部教授）　knagata@cc.musashi.ac.jp

【東海】
●映画「祝の島」上映会
名古屋シネマテーク(愛知県名古屋市千種区今池1-6-13今池スタービル2F)
10/30(土)～11/5(金)　上映10:30／14:40
名古屋市千種区今池 1-6-13 **今池スタービル** 2F　052-733-3959　http://cineaste.jp/

【近畿】
●映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会
場所：神戸元町映画館
日時：11 月 6 日(土)～11 月 12 日(金)16:40；　11 月 13 日(土)～11 月 19 日(金)14:40
神戸市中央区元町通４－１－１２　　078-366-2636　　http://www.motoei.com/

●東条雅之　祝島写真展
11 月 6 日(土)～14 日(日)　→じゃんじゃん横丁（和歌山）
※「じゃんじゃん横丁」といえば大阪新世界が有名だけれど、和歌山です。お間違えなく。
11 月 16(火)～21 日(日)　→てんつくゲストハウス
11 月 23(火祝)～28 日(日)　→じょんのび

●映画「祝の島」上映会
日時：11 月 20 日（土）14:00～
会場：花園大学自適館 300 番教室（京都市中京区）
問い合わせ先：075-822-2830　（京都民医連中央病院地域連携室　甲田）

●だれでも予約なしで立ち寄れる「アトリエオープン day」
祝島のこと、上関原発のことを知りたい方に、アトリエを開放します。まだちょっと、散らかっていますが、よろしければぜひ！！
オープンは、2010 年 10 月 8 日（金）より、毎月第 1～3 週目の水・金曜日 12：00-18：00

祝島や原発に関する本を読みふけるもよし、祝島茶会料理部による、祝島の食材を使ったお菓子などに舌鼓を打つもよし（月 2 回入荷・販売予定）手仕事に没頭するもよし。
祝島への行き方や、現地の宿事情を聞きたい方、人に渡すためのちょっとした資料が欲しいだけの方も、お気軽にお立ち寄りください。大歓迎ですので、お気軽にどうぞ☆
私にお答えできることは知れていますが、わかる範囲でお伝えします。

料理部はレシピブックレットづくりも。編集作業や校正にご協力いただける方も募集中。

それぞれの関わり方で、お気軽にお立ち寄りください、心よりお待ちしております☆

【アトリエオープン day（かぜのね 2 階 202B）】
◎10 月 8 日（金）／13 日（水）／15 日（金）
◎11 月 3 日（水）／5 日（金）／10 日（水）／12 日（金）／19 日（金）
◎12 月 1 日（水）／8 日（水）／10 日（金）／17 日（金）
※入場無料、びわ茶無料、本や資料の閲覧自由
※祝島の食材を使ったお菓子などがやってくる日も！

【中四国】

●２０１０年秋“虹のパレード”

１１月２７日（土）午前１１時～　山口県庁前庭集合
全国から上関原発をやめてほしい！という３００枚以上集まった布メッセージ。 この思いが込められた布メッセージを持って市内を１時間ほど歩きます。 一緒に歩きませんか？
ゆるゆるつながりトーク＆ライブ
日　時　１１月２７日（土）午後３時３０分～午後６時３０分
場　所　“まなまな”　美祢市美東町真名４４５
電　話　０８３９－６５－０８９６
出　演　源の助、en.（エン）その他
参加費　カンパ
※カレーなどの飲食販売は行っています。
お問い合わせ　：ゆるゆるつながりネットワーク
村川博司　℡０９０－２８６２－１３６７　　メール　hiro2361@hotmail.com
まなまな　℡０８３９－６５－０８９６

●映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会

★10 月 16 日(土)～11 月 5 日(金)　広島横川シネマで上映

上映時間→11：30/16:10/18：40
広島市西区横川町 3-1-12
横川商店街ビルＡ棟１階 082-231-1001　http://yokogawa-cine.jugem.jp/

★11 月 20 日(土)～11 月 27 日(金)
　　11 月 22 日(火)　鎌仲監督、舞台挨拶！
会場：シネマ尾道
尾道市東御所町６-２　0848-24-8222　http://www.cinema-onomichi.com/

●映画「祝の島」上映会
会場：東広島市中央公民館小ホール（３F）
日時：11 月 28 日（日）10:00～　；14:00～
問い合わせ先：082-422-3004　ひがしひろしま上映実行委員会

【九州】

●「有明海の特異な生物相－諫早湾の環境復元の意義－」
有明海の生物多様性保全のための四学会合同シンポジウム

日本の他の海では見られない生物がたくさん生活しているかけがえのない内海、有明海。その奥部の広大な泥干潟を閉めきった諫早湾の干拓事業について、生物研究者の 4 学会は、事業の中止・中断、諫早湾の現状復帰、あるいは長期開門調査の実施などを求める要望書を提出しています。その内容を紹介し、生物多様性保全の視点から、諫早湾の環境復元の意義を論じます。

日時：2010 年 11 月 27 日（土）13:30～16:30
会場：諫早市民センター講堂（長崎県諫早市東小路町 8-5，℡：0957-23-1160）
参加費：500 円（資料代）
主催:日本魚類学会、日本生態学会、日本ベントス学会、軟体動物多様性学会保全委員会
プログラム
はじめに　「学会からの要望書提出の経緯」　佐藤正典（鹿児島大学）
講演「有明海の魚類相」　　山口敦子（長崎大学）
講演「有明海の貝類相」　　福田　宏（岡山大学）
講演「諫早湾閉めきり以降の有明海奥部の底生生物相の変化」　佐藤慎一（東北大学）
特別講演「韓国スンチョン市での干潟保全の取り組み」
　　チェ・ドクリム（スンチョン市経済環境局長）
コメント「生物多様性条約に基づく国の政策」　国会議員（氏名未定）
問い合わせ先：　日本ベントス学会自然環境保全委員会　諫早湾問題検討委員会
　　佐藤慎一（℡：022-795-6771; e メール：kurosato@mail.tains.tohoku.ac.jp ）または

佐藤正典（℡：099-285-8169; e メール：sato@sci.kagoshima-u.ac.jp ）

●映画「祝の島」上映

★会場：大分県佐伯市福祉センター「和楽」3 階
日時：11 月 2 日（火）10:00～
問い合わせ先：097-569-5908　グリーンコープおおいた　萱嶋

★会場：大分県別府市北浜　山田別荘
日時：11 月 3 日（水）19:00～
問い合わせ先：080-6439-8853　本多桃代

★会場：大分県別府市十文字原「立命館アジア太平洋大学」スチューデントホール（カフェテリア 2 階）
日時：11 月 4 日（木）18:00～
問い合わせ先：080-6439-8853　本多桃代

★会場：大分県大分市 NHK スタジオホールキャンパス
日時：11 月 7 日（日）13:00～　；17:30～
問い合わせ先：097-569-5908　グリーンコープおおいた　萱嶋

4．事務局便り：

●この「うみひるも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。配信が迷惑と思われる方は事務局までご連絡ください。

●企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。

●このメールマガジンは、毎月 1 日と 16 日の 2 回発行の予定ですが、都合によって遅延や中止もあります。配信を希望する方、送りたい方がありましたらアドレスをお知らせください。また、パソコンを使えない環境の方には印刷体でもお届けします。その場合は、郵送料をご負担していただくことがあります。

●このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。海の生き物や守る運動についての情報など、また各地で行われている海の生物の観察会、研修会、その他の行事に関する情報もお寄せください。「うみひるも」のバックナンバーは、ホームページからダウンロードできます。

●本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ごいっしょに講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。

●本会への寄付をお寄せください。寄付も会費も同じ銀行口座「ゆうちょ銀行　口座番号：１０６１０－６６７３０２１　海の生き物を守る会」へお送りください。なお、送金される場合は、送金の内容について事務局にお知らせ下さい。

5．編集後記

生物多様性条約の第 10 回締約国会議 COP10 が行われました。私も多様性交流フェアに参加してきましたが、雨に祟られたりしたこともあって、人出は思ったよりも少なかったようです。やはりまだまだ生物多様性の重要性は理解が不足しているのでしょう。海の生き物については、さらにまだまだのように思います。今年の COP10 はとくに海の問題が中心的と言われながら、関心はもう一つでした。（宏）

海の生き物を守るためになにかしたい！というあなたに！

会員募集中です！

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。会費は個人 2,000 円／年、団体 20,000 円／年。匿名による参加も可能です。会員は、当会の名前を使って各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行うことができ、そのための助成金申請をすることができます。活動は当会の発行するメールマガジンなどを通して広く通知されます。入会希望の方は、事務局 hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp **（向井）まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。**

メールマガジン『うみひるも』第 68 号
2010 年 11 月 1 日発行
発行＆編集人「海の生き物を守る会」
代表　向井　宏
〒606-8244　京都市左京区北白川東平井町 23-1
グリーンヒル北白川 23
TEL&FAX:075-703-7205; 090-8563-1501　メールアドレス：hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp
ホームページ URL：http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html
銀行口座：ゆうちょ銀行　口座番号：１０６１０－６６７３０２１　海の生き物を守る会